～巻頭言～

Autumn 2020

“ ～ 誕生会でのこと ～ ”

園長　髙杉 洋史

　十月の誕生会でのことです。園長先生のお話の時間を五分ほどもらえるので、季節の話をしています。十月は食欲の秋の話で、特に秋に実る果物を子どもたちに発表してもらいました。もちろん元気よく答えてくれます。その中に栗という答えが出たので、脱線しました。「栗といえばドングリを思い出すよね。ドングリの**ドン**は何か知ってる？」調べもせずに余計なことを言ってしまいました。「栗のようにゆでたり焼いたりしてすぐに食べられないからなんだよ。」そうしたらこどもたちの中から、ずっと水で洗ったら（水にさらしたら）食べられるようになるんだよとの発言。確かに縄文、弥生時代始め、江戸時代でも飢饉の時は食べたようだし、自分だって椎の実は食べたものです。そしてダメ押しの発言。「マツボックリは栗じゃないのにどうしてマツボックリ？」あちゃ〜。わかりません。「園長先生もわからないから調べとくね。」ということで園長先生のお話は冷や汗もので終わりましたが、そのあと検索サイトにお世話になりもっと冷や汗が出ました。

ドングリの名の由来

ドングリはコナラやミズナラ、アラカシやシラカシ、クヌギ、カシワなどの木の実を総称したもので、ドングリの木という名前の木があるわけではありません。ときには「ドングリの木」と呼ぶこともありますが、この場合は、一般的にクヌギの木のことをいいます。また、このクヌギの木のドングリは、ほかの木のものと区別してオカメドングリとも呼びます。参考までに、ドングリの親である木のことを申しあげますと、これらはすべてブナ科に属する木です。材質が硬く、木目が美しいことから、家具として重用されるのをはじめ、薪や炭の材料、シイタケの原木、杭、神社の鳥居など、それぞれの木の特性を生かして木ごとに使い分けられ、利用されています。このうちのミズナラは耐火性に優れていますが、これは材が水分を豊富に含んでいるためで、そこからミズナラの名が付いたものです。

ドングリはリスやクマ、サル、ネズミ類、カケスなど、山に棲む動物たちにとっては大切な餌となりますが、昔は人間もドングリを食べていた時代がありました。渋を抜いて実を食べたり、ドングリ餅にしたり、あるいは飢饉などに備えての非常食として利用していました。ところで、ドングリの名前の由来ですが、これには二つの説があります。ひとつは栃の木の栗、「トチグリ」が訛ったという説。もうひとつは、昔、子供たちがドングリをコマにして遊んだことが由来という説。なぜコマと関係があるのかということになりますが、じつはコマのことを「ツムグリ」と呼んでいた時代があり、そのツムグリが時を経るにつれて次々と変化し、最終的にドングリになったというわけです。由来の説としてはこちらのほうが有力なようです。ところで、漢字では団体の「団」に「栗」と書きますが、これは当て字だそうです。

樹木図鑑―葉・実・樹皮で確実にわかる（実用　BEST BOOKS）

　来月の誕生会で謝りながら続きを話すのは当然ですが、問題は「マツボックリ」の**クリ**です。植物の名前は結構すごい名前が多く「おおいぬのふぐり」とか「ままこのしりぬぐい」とか、かわいいしきれいな花なのにびっくりするのがあります。「まつぼっくり」にも仰天。この件はご自身でお調べください。知らない方がいいかも。

Photo by
Hiroshi Takasugi